

# 博士論文概要

## 論文題目

イタリアにおける歴史的市街地の震災復興に  
みる共編集型都市計画論の構築

Establishment of Co-Editing Planning in Post-Quake  
Reconstruction of Historical Center in Italy

申請者

益子	智之
Tomoyuki	MASHIKO

建築学専攻 都市空間・環境デザイン研究

2020年12月

本研究は、成熟社会における都市計画の新たな計画手法として共編集を定義し、この共編集による都市計画論（以下、共編集型都市計画論）の構築を目指すものである。

我が国は、21世紀初頭以降人口減少や少子高齢化、経済低成長により特徴付けられる成熟社会へと突入し、新たな社会的枠組みに対応するために、都市計画の制度や仕組みの抜本的な改変が必要とされている。本研究では、こうした成熟社会において有用な都市計画論を構築するために、「編集」という実践的行為に着目し、その行為の再定義と計画手法の提示並びに評価を行っている。また、本研究の対象は、我が国と同様に社会・経済的成熟化が進行しており、参加・分権の仕組みと計画制度の改革を推進してきたイタリアの震災復興である。具体的には、3つの歴史的市街地の震災復興事例における共編集の評価並びに計画手法化を行い、「共編集型都市計画論」を構築している。本研究は、序論と3つの部の1～8章、結論から構成されている。

第1部「『編集』の再定義とイタリアにおける平時と有事の都市計画の展開」（第1章・第2章・第3章）では、「編集」の概念整理と再定義、共編集計画手法の仮説的提示を行い、イタリアの都市計画の理論と実践の展開と震災復興時のガバナンス体制の特性を解明し、共編集の実践が想定される震災復興事例を同定している。

第1章「研究の目的と方法並びに『編集』の再定義」では、文献調査により用語としての「編集」の概念を整理し、計画手法として用いるための「編集」の理論的課題と条件を設定した。それを基に、「1.複数主体の協働(Collaboration)」、「2.複数主体間での価値観の共有(Common)」、「3.複数主体による共同体の存在(Community)」の3条件を満たす「編集(Editing)」を「共編集(Co-Editing)」として独自に再定義した。次に、共編集計画手法の要素と構成、共編集型都市計画の進行過程を仮説的に示し、3つの評価指標を設定した。

第2章「近現代イタリアにおける平時の都市計画の理論と実践の展開」では、文献調査により19世紀末以降の平時のイタリアの都市計画の理論と実践の展開を7つの時代区分に応じて整理し、特に戦後の一貫した権利の細分化の進行と民主的手続きの重要性の高まりに対して都市計画がどのように対応してきたのかを整理した。この結果から、開発・保全に対する私権制限と参加・分権の仕組みの制度化の過程を解明し、1970年代以降イタリアの都市計画において、共編集の必要性が高まってきたことを明らかにした。

第3章「4つの大規模震災後の復興ガバナンス体制の特性とその歴史的展開の解明」では、公開報告書を主な資料としたテキストデータの分析と主体間関係の図化により、4つの大規模地震災害後の復興ガバナンス体制を可視化し、それらの特性を明らかにした。次に、「1.中央政府主導と地方自治の関係」、「2.被災歴史的市街地の特性」の2つの分析軸により復興ガバナンス体制をモデル化した。最後に、復興ガバナンス体制の特性を共編集の3条件と照らし合わせることで、共編集の実践が想定される3つの震災復興を詳細分析の対象として同定した。

第2部「3つの歴史的市街地の震災復興の実態解明」（第4章・第5章・第6章）では、3つの震災復興の実態を詳細に解明するために、震災復興毎に時期区分を設定し、復興ガバナンス体制の構築プロセスと復興事業の実施プロセス並びに復興事業による空間変容の実態を明らかにしている。なお、それぞれの章のまとめでは、共編集の観点から各事例を考察している

第4章「ヴェンゾーネ市における復興ガバナンス体制の構築プロセスと空間変容の実態」では、1976年フリウリ地震被災地ヴェンゾーネ市を対象とし、震災復興プロセスの4つの時期区分に基づく実態解明を目的とした。まず、報告書とインタビュー調査結果のテキストデータを用いて復興ガバナンス体制を可視化し、その特性を明らかにした。その結果、初期段階には地方政府へ権限移譲されたガバナンス体制が構築され、最終段階では住民協議会を媒介とした有機的なガバナンス体制が構築されていたことを明らかにした。次に、歴史的市街地の復興事業の実施プロセスの特性を把握し、1つの復興事業を構成する7つの事業介入ユニットでの空間変容の実態を明らかにした。その結果、空間構成要素の撤去や付加による震災以前の空間秩序の再構築や所有者のニーズに基づく新たな空間秩序の創出などの特徴を明らかにした。

第5章「ラクイラ市における復興ガバナンス体制の構築プロセスと復興事業の実施プロセスの相互関係」では、2009年アブルッツォ地震被災地ラクイラ市を対象とし、震災復興プロセスの6つの時期区分に基づく実態解明を目的とした。まず、インタビュー調査結果のテキストデータの分析により、復興ガバナンス体制を可視化し、その特性を明らかにした。その結果、初期段階に構築された中央政府主導のガバナンス体制から多主体協働のガバナンス体制へと遷移していたことを明らかにした。次に、歴史的市街地および周辺地域における復興事業の実施プロセスの特性を把握し、2つの戦略的再生事業と1つの市民組織による事業の空間変容の実態を明らかにした。その結果、戦略的再生事業では、自主ルールと設計ガイドラインに基づいた、新しい空間秩序の創出あるいは震災以前の空間秩序の再構築が計画されており、他方市民組織による事業では、セルフビルドでの公共空間再整備による新たな空間秩序の創出が実現されていたことなどの特徴を明らかにした。

第6章「ノヴィディモデナ市における復興ガバナンス体制の構築プロセスと空間変容の実態」では、2012年エミリアロマーニャ地震被災地ノヴィディモデナ市を対象とし、震災復興プロセスの4つの時期区分に基づく実態解明を目的とした。まず、コミュニティ参加のファシリテート専門家へのインタビュー調査結果のテキストデータの分析により、復興ガバナンス体制を可視化し、その特性を明らかにした。その結果、初期段階から最終段階にかけて運営グループを中心としたコミュニティ参加を促進するガバナンス体制が構築されていたことを明らかにした。次に、歴史的市街地および周辺地域における復興事業の実施プロセスの特性を把握し、4つのパイロット事業の空間変容の実態を解明した。その結果、3つのパイロット事業ではコミュニティ参加過程での議論を規範とし、新設された建物の建材や色彩の調和による新たな空間秩序の創出、着工中の事業では、中心広場の舗装や家具、植栽の再整備による新しい空間秩序の創出などの特徴を明らかにした。

第3部「共編集の評価と『共編集型都市計画論』の構築」（第7章・第8章）では、3つの震災復興事例における共編集を評価し、歴史的市街地の規模と震災復興の主目的に着眼して、3つの共編集計画手法モデルの導出と1つの統合的共編集計画手法モデルの提案を行い、「共編集型都市計画論」を構築している。

第7章「3つの震災復興事例における共編集の評価」では、第1章で設定した3つの評価指標を用いて、実態を明らかにした震災復興事例における共編集の評価を目的とした。まず、3つの震災復興事例が、共編集の3条件を満たしていたかを把握した。次に、「1. 制度と運動の過程の間に相互関係が存在したか」、「2. 段階に応じてガバナンス体制が構築され続けたか」、「3. 空間像に即した実空間が実現されたか」の3つの指標を用いて、それぞれの震災復興事例における共編集を評価した。その結果、ヴェンゾーネ市とノヴィディモデナ市の震災復興では、全ての時期区分において制度と運動の過程の間に相互関係が存在し、段階に応じてガバナンス体制が構築され続けた結果、空間像に即した実空間が実現されていた。他方、ラクイラ市の震災復興では、6つの時期区分の内3つの時期においてのみ制度と運動の過程の間に相互関係が存在し、3期以降に段階に応じてガバナンス体制が構築され続けていた。その結果、歴史的市街地中心部の空間像と市民組織による事業の空間像は実空間として実現されていたが、歴史的市街地周辺地区の戦略的再生事業の空間像は実現されていなかった。最後に、3つの震災復興事例の評価結果を比較考察することで、共編集の特徴を明らかにした。

第8章「共編集の計画手法化と『共編集型都市計画論』の構築」では、3つの震災復興事例における共編集の評価を踏まえて、各事例において共編集が果たした役割と課題を把握した。次に、歴史的市街地の規模と震災復興の主目的に対応した3つの共編集計画手法モデルを導出し、それらに基づき大規模な歴史的市街地を対象とし複合目的を達成し得る統合的共編集計画手法モデルを提案した。最後に、提案した統合的共編集計画手法モデルをイタリアの平時の都市計画へ適用させることで共編集型都市計画の枠組みを示し、この枠組みに基づく3つの適用方法とそれらを支える制度的な仕組みを体系化することを通じて、イタリアにおける「共編集型都市計画論」を構築した。

以上、要するに本研究は、実態解明を行った3つの歴史的市街地の震災復興における共編集を評価し、歴史的市街地の規模と震災復興の主目的に基づく計画手法モデルの導出と提案を行い、この提案モデルによる共編集型都市計画の枠組みを示し、3つの適用方法とそれを支える制度的な仕組みを体系化することで、「共編集型都市計画論」を構築したものである。この「共編集型都市計画論」は、歴史的市街地の復元、修復、再生、再価値化の複合的な目的を達成し得るとともに、平時における漸進的な都市計画論として有用であることが示された。今後は、構築した「共編集型都市計画論」が、社会・経済的成熟化が進行している日本などその他の国での応用可能性を精緻に検証することが求められる。

# 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 益子 智之

印

(2021年 2 月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
○論文 (査読付)	復興ガバナンスの構築プロセスと復興事業の実施プロセスの相互関係、 アブルッツォ地震から10年経過したラクイラ市を対象として、日本建築学会計画系論文集 85(771)、pp.1067-1077、2020年5月、益子智之・ジャンフランコフランツ・内田奈芳美・有賀隆・佐藤滋
○論文 (査読付)	イタリアにおける4つの大規模震災後の復興ガバナンスとその歴史的展開プロセスに関する研究、日本建築学会計画系論文集 84(757)、pp.579-589、2019年3月、益子智之・ジャンフランコフランツ・内田奈芳美・有賀隆・佐藤滋
○論文 (査読付)	Collaborative planning for post-disaster reconstruction in Italy, International Planning History Society Proceedings 18(1), pp.814-824, 2018.10, Tomoyuki Mashiko, Monia Guarino, Gianfranco Franz, Shigeru Satoh
○論文 (査読付)	Post-Disaster Reconstruction Planning and Urban Resilience: Focus on Two Catastrophic Cases from Japan and Italy, Urbanistica Informazioni 272(2), pp.189-193, 2018.2, Tomoyuki Mashiko, Shigeru Satoh, Donato Di Ludovico, Luana Di Lodovico
総説	震災復興の観点から考えるイタリアの豊かさ、都市計画 69(6)、pp.44-47、2020年11月、益子智之
総説	Planning and design for post-quake reconstruction in Italy L' Aquila City, 10 years after the Abruzzo Earthquake, 復興デザイン会議第一回全国大会資料集, 復興デザイン研究体, pp.1-2, 2019.12, 益子智之
総説	エミリア・ロマーニャ地震後の住宅復興における社会福祉法人の役割 高齢者福祉住宅事業を事例として、住まいの復興の共有知を目指して 東日本大震災の事例から考えるこれからの住まい、日本建築学会、pp.75-76、2019年9月、益子智之
総説	大阪から考える都市再生の現在、建築雑誌 134(1729)、pp.2-3、2019年10月、藤村龍至・益子智之・吉本憲生・内田奈芳美・吉江俊
総説	万博から考える関西の未来、建築雑誌 134(1729)、pp.20-21、2019年10月、藤村龍至・豊川斎赫・益子智之・水谷元・三井祐介・吉本憲生・吉江俊
総説	瀬戸内テリトリーオの再構築、建築雑誌 134(1724)、pp.2-3、2019年5月、藤村龍至・樋渡彩・三宅拓也・杉田宗・藤田慎之介・益子智之
総説	イタリア震災復興の論点、造景、pp.31-40、2019年7月、益子智之
総説	大規模地震災害後の多様な住まい イタリアの取り組みから学ぶ、建築ジャーナル1288、pp.2-7、2019年3月、益子智之
総説	イタリアにおける地震災害後の暫定居住地の計画とデザイン、建築雑誌134(1721)、p.14、2019年3月、益子智之
総説	「仮」すまいの未来、建築雑誌 134(1721)、pp.2-3、2019年3月、豊川斎赫・井本佐保里・石樽督和・益子智之・益邑明伸
総説	災害復興計画史研究の最新動向、都市計画67(6)、p.4、2018年11月、益子智之
総説	イタリアの歴史的市街地における修復型復興、都市計画 66(5)、p.8、2017年9月、益子智之
講演 (招待)	歴史的市街地の震災復興をめぐるジレンマ-イタリア・ラクイラの事例から-、住まいの復興の共有知を考える連続トークイベント、第1回時間とジレンマ-都市か人か-、zoom、2020年11月、益子智之
講演 (招待)	戦後イタリアの復興デザイン思想の展開、第1回復興デザイン会議論文賞記念講演会、復興デザイン会議、zoom、2020年6月、益子智之
講演 (招待)	イタリア都市再生の現在 カタストロフィと歴史的な居住環境、早稲田まちづくりセミナー#07、早稲田都市計画フォーラム、東京都新宿区、2020年1月、益子智之
講演 (招待)	Planning and design for post-quake reconstruction in Italy L' Aquila city, 10 years after the Abruzzo Earthquake, Disaster Re-Design in Abroad, 東京都文京区、2019.12、益子智之
講演 (招待)	イタリア震災復興の5つの論点、第6回「復興とは何か」を考える連続ワークショップ、日本災害復興学会、東京都千代田区、2018年12月、益子智之
講演 (招待)	イタリアの震災復興から何を学ぶか、仮設市街地研究会、日本都市計画家協会、東京都千代田区、2018年9月、益子智之
講演	アクティビティの混在による賑わいを誘発するアーケード空間の構成原理とその利用特性の解明に関する研究 伝統的都市ジャイプル旧市街を対象として、2019年日本建築学会大会(北陸)学術講演会、2019年9月、山田歩美・益子智之・内田奈芳美・有賀隆

# 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 益子 智之

印

(2021年 2 月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
講演	タイの水上マーケットにおける水上通路の伝統的空間性・生活形態の持続可能性の研究 サムットソン グラーム・アムパワーを事例として、2019年日本建築学会大会(北陸)学術講演会、2019年9月、村井 瑞希・益子智之・内田奈芳美・有賀隆
講演	重要文化的景観認定区域における住民活動に対応した水路空間マネジメントに関する研究 山形県長井 市を対象として、2019年日本建築学会大会(北陸)学術講演会、2019年9月、加藤雅大・益子智之・内田 奈芳美・有賀隆
講演	東日本大震災からの復興における地域住居の住生活と機能の変容に関する研究 宮城県気仙沼市唐桑町 小鯖地区における防災集団移転事業を事例として、2019年日本建築学会大会(北陸)学術講演会、2019 年9月、笹森達也・小嶋諒生・益子智之・内田奈芳美・有賀隆
講演	ヴェンゾーナ市における市街地復興プロセスと市民参加の関係 イタリアにおける震災復興都市計画に 関する研究(2)、2018年日本建築学会大会(東北)学術講演会、2018年9月、益子智之・佐藤滋
講演	漁村集落における防災集団移転促進事業計画・事業プロセスと高台移転者の居住環境変化の関係に関す る研究、2018年日本建築学会大会(東北)学術講演会、2018年9月、小嶋諒生・有賀隆・内田奈芳美・益 子智之
講演	Collaborative planning for post-disaster reconstruction in Italy, 18th International Planning History Society Conference, Session 6 Disaster and Resiliency, Yokohama, 2018.7, Tomoyuki Mashiko, Monia Guarino, Gianfranco Franz, Shigeru Satoh
講演	Post-Disaster Reconstruction Planning and Urban Resilience: Focus on Two Catastrophic Cases from Japan and Italy, 10th Study Day of INU Conference, Session 2 Post-Catastrophe Reconstructions, Napoli, 2017.12, Tomoyuki Mashiko, Shigeru Satoh, Donato Di Ludovico, Luana Di Lodovico
講演	Post-Disaster Territorial Reconstruction Methodologies: a focus on L' Aquila City Italy, 7 years after the Abruzzo Earthquake, 24th International Seminar on Urban Form Conference, session W1C URBAN MORPHOLOGY ANALYSIS: Post-catastrophe areas, Valencia, 2017.9, Tomoyuki Mashiko
講演	ラクイラ市歴史的市街地における復興メカニズムの解明 イタリアにおける震災復興都市計画に関する 研究(1)、2017年日本建築学会大会(中国)学術講演会、2017年9月、益子智之・中西美裕・佐藤滋
講演	On the Reconstruction Methods for the Quaked Historical Center in Italy: A case study of Mirandola, the Earthquake city, North Italy, 2012, 17th International Planning History Society Conference, session Q2 Resilience and Climate, Delft, 2016.7, Tomoyuki Mashiko, Naoto Nomura, Gianfranco Franz, Shigeru Satoh.
講演	Recovery process for the tsunami devastated areas in Tohoku Region, 3rd International Workshop on Risk Design and Planning, 2016.7, Tomoyuki Mashiko
講演	仮設住宅から町外コミュニティ移行へのデザイン 福島県浪江町民との協働の取り組み、2015年日本建 築学会大会(関東)学術講演会、2015年9月、佐藤亘・泉貴広・丹野勝太・益子智之・沖津龍太郎・箱 崎早苗・星直哉・小林真大・菅野圭祐・茂木大樹・白木里恵子・佐藤滋
講演	アクション・リサーチによるまちづくりプロセスの分析 福島県浪江町避難住民による協働の復興まち づくり、2015年日本建築学会大会(関東)学術講演会、2015年9月、菅野圭祐・益子智之・白木里恵 子・野村直人・茂木大樹・小林真大・佐藤亘・阿部俊彦・丹野勝太・岡田昭人・佐藤滋
講演	ZERO VOLUME, International Contemporary Design in Historical Centers Workshop, 2015.4, Laura Abbruzzese, Tomoyuki Mashiko, Favia Prado, Paulo Henrique Viel
講演	Research on improvement methodologies for living environments in city built-up areas in China: A case study about three different living environments in Hangzhou, 10th International Symposium on Architectural Interexchange in Asia Conference, session C3 Urban Planning and Landscape Design, Hangzhou, 2014.10, Tomoyuki Mashiko, Xiaofei Zhang, Chengqi Zhao, Naomi Uchida, Shigeru Satoh.
講演	杭州市中心部・湖滨地区におけるジェントリフィケーションと自律的居住環境の変質実態 杭州市の都 市変容と住環境改善段階に関する研究(3)、2014年日本建築学会大会(近畿)学術講演会、2014年9月、 益子智之・菊地原雄馬・張曉菲・内田奈芳美・趙城琦・佐藤滋

# 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名： 益子 智之

印

(2021年 2 月 現在)

種類別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
講演	Disaster Risk Management by developing the power of local community, 1st Summer School of the International Network Routes towards Sustainability, 2014.7, Tomoyuki Mashiko
講演	気仙沼市内湾地区における防潮堤問題と住民主体のまちづくり、復興支援住まい・まちづくり展、2014年3月、阿部俊彦・松村尚之・藤岡諒・益子智之
著者	まちづくり図解、鹿島出版会、2017年7月、佐藤滋、内田奈芳美、野田明宏、益尾考祐、阿部俊彦、井上拓哉、大木一、大橋清和、加納亮介、菅野圭祐、杉本千紘、瀬戸口剛、瀬部浩司、辰巳寛太、新津瞬、益子智之、山田大樹（5章担当）
その他 (受賞)	2019年復興デザイン会議第一回全国大会 復興研究論文 奨励論文賞、2019年12月、益子智之
その他 (受賞)	2018年日本建築学会大会学術講演会若手優秀発表賞、2018年11月、益子智之